



たちばな3月号

令和8年3月1日
橋公民館発行
通巻543号

〒793-0065 西条市榎木54-1
TEL (0897) 57-9543
FAX (0897) 57-6221
eメール tachibana-k@saijo-city.jp

橋校区の人口(1/31現在)
総人口1,754人(+1)
(男 846人)(-1)
(女 908人)(+2)
世帯数 832(+1)

ギャラリー橋

今月は『クラフトひまわり』の作品展示です。一つ一つ器用に編み込まれた作品をぜひご覧ください。



昨年度の作品

3月の行事予定

日	曜	公民館関係・地区行事	
1	日	休館日	
2	月	防災部定例会	(19:00~)
4	水	民生児童委員定例会	(19:30~)
6	金	さわやかクラブ世話人会 防犯協会定例会	(13:30~) (19:30~)
7	土	休館日	
8	日	休館日	
12	木	わいわいカフェ	(10:00~)
14	土	休館日	
15	日	休館日	
20	金	休館日(春分の日)	
21	土	休館日	
22	日	休館日	
28	土	休館日	
29	日	休館日	

3月 カワセミ号 (移動図書館)

橋小学校 11日・25日(水) 12:50~13:20

1/30(金) 出前授業「ようこそ橋の先輩」



今年度も橋小6年生を対象に、『ようこそ橋の先輩』出前授業が行われました。橋にゆかりのある先輩方とグループ対話を行い、心に残ったパワーワードを発表したりと、お互いが学び合える時間となりました。授業後は、わいわいおしゃべりしながら交流し、給食センターの給食をいただきました。



ローソン移動販売

4日(水) 11日(水)
18日(水) 25日(水)

- 15:00~15:10 野々市集会所
- 15:15~15:25 榎木西
- 15:30~15:40 榎木集会所
- 15:45~15:55 西田

2/6(金) 橋小地域未来塾

金曜日の放課後に学習支援活動を行ってきた橋小地域未来塾。今年度も多くの4・5年生児童が参加し、『宿題もみんなと一緒にやると楽しい』という経験を重ねてきました。学習支援員に見守られつつ、のびのびとした学習環境で過ごした時間は、子ども達の好奇心や探求心を育むひと時となりました。



2/1(日) 150周年記念映像上映会

橋小学校150周年記念のフィナーレを飾る、橋の1年間を密着撮影した映像作品上映会が行われました。上映開始から、たくさんの方が感極まる様子も見られ、橋の魅力を再認識することができました。小学校と共に歩む、橋の1年が心に残るあたたかな時間となりました。

2/11(水) 愛ちゃん教室

今年度最後となる愛ちゃん教室は防災をテーマに「防災お菓子バッグづくり」を行いました。災害時に知らせたいことなどを紙に記入しバッグの中へ。他には、実際に使えるマスクや絆創膏とお楽しみのお菓子を詰め、バッグ側面のオリジナル絵描きに熱中する姿も見られました。
また、一年間のアンケートでは、来年も愛ちゃん教室に来てもっと楽しみたいと嬉しい感想も。来年度も体を動かしたり、創造したり色々な体験を検討していきたいと思っております。



マーフィーさん(撮影者)へ感謝状

1/20(火) 昔からの遊び

橋小1・2年生が、さわやかクラブのみなさんと昔からの遊びを行いました。今もよく遊んでいる折り紙やあやとりなどは、一緒になって楽しみ、コマやめんこといったコツが必要な遊びは悔しがむ姿が見られ、教わりながら時間いっぱい遊びました。お礼に、手話付きの歌と肩たたきのプレゼントをいただきました。



1/22(木) いきいきたちばな

～「家訓」について考えよう～

石鎚神社 権宮司 十亀博行氏をお迎えして講話をしていただきました。

今年は、どんな年になりそうか(丙午、ひのえ うま)、また暦に関する様々な興味深いお話を聞くことが出来ました。

次に、感謝の気持ちとはどのようなものか?このことを考えるために、まず、両親から言われた印象的な言葉を書き出しました。それをもとに、子供や孫に伝えたい言葉・家訓について考えてみました。

日頃、生活をしていく中で、大切な指針となる言葉を、家族で共有することは大切なことだと感じました。



ふるさと 『たちばな』

～村のうつりかわり～

この地方に神野(かみの)郡がはじめておかれたのは、孝徳天皇の大化年中(大化元年が645年、1381年前)でありました。このときは国・郡・里の制度ですから伊予国神野郡〇〇里とよびました。この国・郡・里の制度がやがて国・郡・郷の制にかわりました。平安時代に入りますと、平城天皇の大同4年(809年、今より1217年前)神野郡が新居郡に名前が変わりました。伊予の国は14の郡からなり、新居郡は6つの郷(はじめは5)からなり各々の郷はいくつかの村から成り立つようになりました。新居郡の6郷は東より井上郷、新居郷、島山郷、加茂郷、神戸郷、立花郷の6つです。立花郷は1つの村氷見村でできていました。したがって、この郷土の呼び方は、伊予国新居郡立花郷氷見村でありました。このようにこの地方は1郷1村の大きな氷見村で、石高も約2千石もあるような大村でありました。それがだんだんと次のように氷見村から分村していきます。

西条誌によれば、江戸時代の正保2年(1645、今より381年前)、坂元村と檜木村が氷見村より分かれしました。また同年、西条藩主一柳監物が檜木村辺の海を開発して土地を作りまた檜木村より一部を分けて西泉村をつくりました。したがって、西泉村は新開の村であり、また檜木村の分村でもあるわけです。寛文元年(1661、今より365年前)、旦(だん)も氷見村から分けて西田分となり、その翌年寛文2年には、野々市も氷見から分かれ西泉村に入りました。

このようにさしも大きかった氷見村も江戸時代の初期頃に、坂元村、檜木村、西泉村、西田分と分かれていったわけでありました。

天明2年(1782、今より244年前)禎瑞新開ができますと、西条藩は「禎瑞方」をおいてこれを治めていきました。

明治22年(1889、今より137年前)、明治政府の町村令により、この坂元村・檜木村・西泉村・西田分、それに禎瑞を合せて新しい橋村が誕生しました。この橋村の名前は昔の立花郷からとったものです。ここで昔の郷名が復活したわけでありました。

ところが、この橋村も、昭和16年西条市制の実施にともない市に統合されて、村名はなくなり、西条市坂元、西条市檜木とよばれるようになりました。しかし、郷名の「たちばな」は橋小学校名として残っているわけです。

『ふるさと たちばな』(明比 学著)(昭和52年 編集発行)より抜粋

1/23(金) 竹ぼうきづくり

橋小5年生がさわやかクラブのみなさんに、竹ぼうきの作り方を教わりました。少し力や工夫が必要なところは、手伝ってもらいながらも、道具を器用に使い、オリジナルの竹ぼうきを完成させました。手仕事の大変さを学びながら、物を大切に作る気持ちが芽生える機会となりました。



1/29(木) ひょうたん教室①

講師に藤田勉氏をお迎えし、ひょうたんキーホルダーの色付け体験を行いました。水の上に垂らした塗料の中に、ひょうたんを浸けその後乾かすという工程で、思い思いの色で色付けが終了しました。それぞれオリジナルひょうたんの乾き上がりを楽しみます。次回は金具を取り付けて完成となります。



2/15(日) スポーツ体験会

3/1(日)に行われる小学校区対抗軽スポーツ大会に向けて練習体験会を行いました。大会当日は橋校区から5チームの参加を予定しており、スポーツ推進委員さんから当日のルールや試合中の注意事項について説明を受けました。練習試合ではチームごとに作戦を練りフォローし合ったり、相手チームからたくさんのアドバイスやコツを受けたりと、橋校区全体で大会に向けての意識が高まっていました。失敗しても上手くできても笑い声と歓声の絶えない賑やかな練習となりました。

